



薬 剤 部

患者さんとお薬のあるところ、常に薬剤師あり

薬剤部
部長

岩井 新治



いつも患者さんを見守るお薬のスペシャリスト

市立札幌病院では専門性の高い多職種の医療従事者が協働して患者さん中心の医療「チーム医療」を実践しています。チーム医療の利点は、専門職が分担・連携・相互支援することで、安心・安全・良質な医療を患者さんに提供できることです。特に薬剤師は安全な薬物療法の確保を保障する重要な役割を担っています。

病棟では

私たちは、医療チームとして連携を図るため多くの病棟を対象に病棟担当薬剤師を配置し、医師回診への同行やカンファレンスへ参加しています。薬剤師の重要な仕事のひとつに服薬指導があります。特に、入院患者さんに対してはベットサイドでの服薬指導のみならず、注射剤の調剤・混合、稀少医薬品の管理、最新の医薬品情報提供、持参薬、アレルギー・副作用を発生した医薬品等の薬歴管理など、高度な薬学的管理を総括したものとなっています。服薬指導を中心としたこれらの業務は、薬剤師が最も有効にチーム医療を実践するものであり、院内の医療スタッフからはもちろんのこと、患者さんからも安心して薬物療法を受けられると高い評価を得ています。

研鑽を積んで

多職種横断的に組織され、より患者さんに安心して薬物療法を受けていただける環境を作る努力をしています。近頃は医療の高度化、多様化により薬剤師はより高度で専門的な知識と技能が要求されています。薬剤部ではこうした要求に応えるべく、部内勉強会の開催やセミナーおよび学会等への参加を職員に促しています。現在、当院薬剤部では多くの専門・認定薬剤師を各分野において養成し、その専門性を活かしチーム医療に貢献しています。

専門・認定薬剤師養成状況

○がん薬物療法認定薬剤師（3名）

がん化学療法の処方鑑査、治療スケジュールや主な副作用、注意事項の患者指導を行い副作用の早期発見・早期対応に努める。

○感染制御専門薬剤師（1名）

○感染制御認定薬剤師（2名）

ICT（インфекションコントロールチーム）のメンバー。院内ラウンドの参加。抗菌薬や消毒薬の使用量調査、院内感染対策マニュアルの作成などを担当。

○抗菌化学療法認定薬剤師（2名）

医師、感染制御専門・認定薬剤師、臨床検査技師と共にカンファレンスを行い、院内の抗菌薬の適正使用に努める。

○糖尿病療養指導士（3名）

糖尿病教室で治療薬の説明や副作用発現時の対応方法を説明。糖尿病教育入院患者に退院後も継続して療養できる知識や動機づけを病棟スタッフと協力して行う。

○認定実務実習指導薬剤師（6名）

道内の薬学生（5年生）の長期実務実習（2.5ヶ月）を受け入れ、将来を担う医療人の育成に携わる。

明日に向かって

「患者さんあるところに薬剤師あり！」をスローガンに業務にあたっています。地域完結型の医療提供に地域連携は欠かせません。院内・院外の医療スタッフとともに、患者さんをしっかり支えていきたいと考えています。



前列左より：黒沼博史調剤課長・岩井部長・後藤仁和薬剤課長

後列左より：平七重薬品供給係長・加納宏樹薬品情報係長

高橋強調剤係長・結城祥充服薬指導係長

上田晃製剤係長・川本由加里薬品管理担当係長